

**【地域創生×SDGsセミナー】in 長崎**  
**「地域の取組みが世界を変える～「産官学民」のSDGs取組事例を中心に～」**  
2019年2月13日 長崎県美術館ホール

**パネルディスカッション 登壇者紹介**

**「産」:協和機電工業株式会社 活動概況**

1948年、長崎県で創業。浄水場、下水処理場及び電力施設等のインフラ分野において、エンジニアリングから設計、製造、工事、メンテナンスの事業を展開。2003年より中国に進出し、現地の顧客の工場に向けて、水処理を中心とした環境エンジニアリング事業を展開。2010年頃から東南アジアに向けた展開を開始し、インドネシア、ベトナム、マレーシア等での事業展開を模索。特に日本での実績を持つ海水淡水化や膜ろ過浄水システム、排水処理システムを中心に、SDGs「Goal6. 安全な水とトイレを世界中に」に貢献するべく、長崎から日本全国、さらに海外へ向け、環境創造企業として事業を拡大中。協和機電グループ全体の従業員数は約800名で、売上は約140億円。

**協和機電工業株式会社 代表取締役会長 坂井秀之氏 プロフィール**

1946年生まれ。早稲田大学大学院理工学研究科修士課程修了後、日本軽金属株式会社を経て1997年に協和機電工業株式会社に入社。2008年から2018年まで代表取締役社長として積極的な海外展開にも注力。2018年より協和機電ホールディングス代表取締役社長兼、協和機電工業株式会社代表取締役会長に就任。長崎大学産学連携戦略本部客員教授。九州環境エネルギー産業推進機構(K-RIP)副会長兼国際ビジネス部会長など。

**「産」:株式会社ナカムラ消防化学 活動概況**

株式会社ナカムラ消防化学は総務省から認定された全国消防自動車メーカー8社の1社。

開発に力を入れ、これから見込まれる人口減や高齢化を想定し「簡単」「軽量」「安価」をキーワードに製品作りを実践。消防自動車関連開発のみならず、“投擲型簡易消火用具”や人体や環境にやさしい“フッ素フリー消火薬剤”の開発など、特許製品も多く取得。消防・防災ビジネスはソーシャルビジネスと位置付けし日本国内だけではなく海外も視野に入れたSDGsに繋げる社会課題抽出と課題解決を活用しビジネス化を模索。自社完結ビジネス活動ではなく、例えばチームながさきなど地域を巻き込んだ取組を目指しています。

**株式会社ナカムラ消防化学 取締役 中頭徹男氏 プロフィール**

1966年長崎県生まれ。前職では法人税務関連の業務に従事し、2006年株式会社ナカムラ消防化学入社。2014年より現職。事業計画及び開発企画立案推進。知財関係。法務関連。海外窓口業務などに従事。2018年採択されたJICA案件化調査の業務主任者として活動中。SDGs推進や地域創生に向けた取り組みを通じ、地域に必要とされる企業になることを目指しています。

**「官」:長崎県壱岐市 活動概況**

壱岐市ではSDGsの特徴の一つである「誰一人取り残さない」という包摂性に注目し、離島のベンチマークモデルとなるべくSDGsの推進を行っている。

2030年の将来像として、2000年続く交流・対話の島の歴史を未来へとつなぐとともに、先端技術を積極的に取り入れ、少子高齢化等の社会的課題の解決と基幹産業である1次産業を中心とした経済発展を両立する。また、現実・仮想ともに様々な人や情報につながることで、イノベーションが起り続け、あらゆる課題に対応できるしなやかな社会を作るとともに、一人一人が快適で活躍できる社会を目指すべく様々な活動を行っている。

**壱岐市企画振興部地域振興推進課係長 篠原一生氏 プロフィール**

2000年4月、旧壱岐郡郷ノ浦町入庁。総務課、企画財政課を経て、2004年3月、合併により壱岐市入庁。総務課、財政課、政策企画課を経て、福岡市経済観光文化局観光コンベンション部プロモーション推進課に出向。その後、壱岐市観光連盟事務局次長を経て、地域振興推進課に従事。2018年6月より富士ゼロックス地域創生営業部みらい創り支援グループにも出向し、壱岐みらい創りサイト事務局長も兼務。

## **「学」:長崎大学 活動概要**

長崎大学は「長崎に根づく伝統的文化を継承しつつ、豊かな心を育み、地球の平和を支える科学を創造することによって、社会の調和的発展に貢献する」という理念を持ちます。これは SDGs の目指すところで言い換えると、平和の町長崎から紛争を抑止するために、グローバリズムの弊害を克服し、経済・社会・環境の調和した未来社会を目指すことに他なりません。21 世紀にあって平和に資する大学として、長崎大学は SDGs のなかでも特に世界のリスクに対する備え、回復力(レジリエンス)を強化するとともに(核兵器・放射線災害・感染症)、長崎が直面する高齢化・人口流出の課題が先鋭化する島における取り組みから誰一人取り残さないことを希求し(島嶼 SDGs プロジェクト\*)、編み出した課題解決を世界に発信していきます。

\*2018 年 11 月 14 日に第一回長崎大学「島と SDGs シンポジウム」を開催

## **長崎大学 グローバル連携機構助教 藤野忠敬氏 プロフィール**

総合大学である長崎大学の特色を生かしたグローバルな教育・研究活動を展開するとともに、世界的に活躍し得る人材の育成を推進するために設置(2018 年 7 月)された、グローバル連携機構の専任教員。現在、長崎大学の「島嶼 SDGs プロジェクト」において学際的・分野横断的な活動の推進・コーディネートを行っている。専門は水産科学。

## **「民」NPO 法人 雪浦あんばんね 活動概況**

1999 年地域回遊型のイベント雪浦ウィークを発案し開催。人口 1200 人の地区にゴールデンウィークの 4 日間で 12,000 人を超える人々が訪れるイベントに育った。年 1 回の活動から、年間を通じた活動にと、2014 年総務省過疎集落等自立再生対策事業で、空き店舗を活用しカフェレストランゆきやを開設。同時に NPO 法人雪浦あんばんねを立上げ、ゆきやの運営から地域活性化事業に取り組み始めた。2016 年長崎県小さな楽園交付金事業の採択を受け、空き家を活用したゲストハウス森田屋を開設。毎月、第 4 土曜日にはマルシェと健康教室を開き、また耕作放棄地を解消して有機農園を開拓している。2017 年には、農山漁村振興交付金の採択を受け、農泊推進事業ヘルスツーリズム、体験プログラム造成、薬草カフェの商品開発に取り組んでいる。

## **NPO 法人 雪浦あんばんね 理事長 渡辺督郎氏 プロフィール**

1957 年雪浦生まれ。小学校から高校まで長崎市。1983 年 10 月から 3 年間青年海外協力隊としてソロモン諸島で活動。1987 年 4 月に雪浦に U ターン。学習塾経営の傍ら、10 年間無農薬有機農業で水稻栽培。JICA 事業で海外在住通算 13 年。東日本大震災時には、(公社)青年海外協力協会の職員として、岩手県沿岸自治体の震災支援活動に 1 年 7 カ月、2012 年 11 月に雪浦に帰郷。2013 年 5 月に西海市議会議員に。現在、特定非営利活動法人雪浦あんばんね理事長。

## **「民」NPO 法人 環境カウンセリング協会長崎 活動概況**

2004年～長崎伝習所「環境ネットワークながさき塾」(塾長)として活動開始。市民活動及び日本で持続可能な社会を地域から創りだす市町村の「日本の環境首都コンテスト」(2001～2010年)全国ネットワーク団体として活動。ドイツの環境先進都市等の視察を通して学びを深める。2010年～長崎市と NPO の協働にて環境活動団体と他主体との繋がりを目指す「ながさきエコネット」市民リーダーとして活動。2014年～環境省及び長崎県環境部と NPO の協働にて小・中学校における「持続可能な地域づくりを担う人材育成」事業のモデル校づくりを通して ESD 教育実践普及に取り組んでいる。又「長崎 SDGs クラブ」組織づくりメンバーとして活動。

【持続可能な地域づくり将来ビジョンの共有、多様な主体のつながり、ESD(Education for Sustainable Development)と SDGs の浸透】

## **NPO 法人 環境カウンセリング協会長崎 副理事長 宮原和明氏 プロフィール**

東京工業大学・建築学科卒(建築環境工学専攻・工学博士、音響デザイナー:研究の傍らアルカス佐世保、東彼杵町ホール音響デザインなど作品多数)、

1968年鹿児島大学工学部助手を経て1974年～2010年長崎総合科学大学工学部建築学科及び大学院環境計画学専攻・助教授・教授、同地域科学研究所長を経て退職。現在、長崎総合科学大学名誉教授、NPO 環境カウンセリング協会長崎・理事長を経て副理事長、(一財)長崎県建築・住宅総合センター理事長など。